171

相模湾の魅力向上へ

平塚で県がシンポ

市民団体との連携探る

相模湾の海岸美化をテーマに行政と市民団体などの連携の在り方を考えるシンポジウムが九日、平塚市松風町の平塚商工会議所会館で開かれた。県の主催。

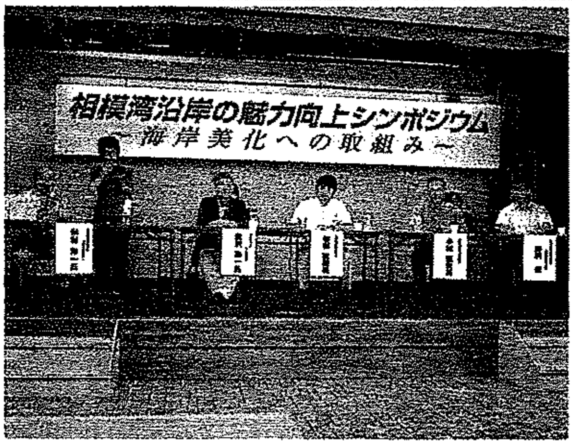
（矢野　真里）

美化活動テーマに120人参加

県が三月に策定した「さがみ湾文化ネットワーク構想」のモデル事業であるリレーシンポの第一回。沿岸の多彩な地域資源を市民活動と連携して魅力向上に生かそうという取り組み。今回のテーマである美化活動にかかわる市民団体メンバーや市民、学生ら約百二十人が参加した。

特定非営利活動法人（NPO法人）地域交流センター（東京都港区）副代表理事の米村洋一さんが基調講演。「湘南ひらつかビーチクラブ」（平塚市、北沢浩一会長）、「環境応援団いっぽ」（開成町、前田直昭代表）、小田急電鉄（東京都新宿区）の環境統括担当がそれぞれの活動を報告した。

「ビーチクラブ」は「サーフ'90」時のボードウオーク存続を行政に働きかけ、現在のビーチパークで、スポーツなどを通じ「楽しみながら海を守る」活動を展開。毎日が美化活動であり、藤沢・江の島や逗子、県外にも同様のクラブができネット化していることを報告。


相模湾沿岸の魅力向上シンポジウム
〜海岸美化への取組み〜

相模湾沿岸の魅力向上へ県と市民の連携を探ったシンポジウム

「いっぽ」は「遊び場を守る」を目的に、湘南海岸や相模川のごみ拾いから、啓発・提案へと活動を拡大。代表の前田さんは「個々の市民団体が楽しみながら寄ってくる場づくりが必要。かながわ海岸美化財団などが場になってくれれば」と連携の例を提案した。

コーディネーターを務めた米村さんは、会場からの意見を基に、川の上流と下流の、行政も介在した人との交流の実現なども呼び掛けた。

一般公開で多彩な催し

水産研究所横浜庁舎

水産総合研究センターの中央水産研究所横浜庁舎（横浜市金沢区）の一般公開が九日行われ、親子連れでにぎわった。

一九九三年から開催されている年一回の施設開放。最近減少しているマイワシの代わりとして、食用に向けた加工処理の研究に取り組んでいる、カタクチイワシのさばき方教室や、アカイカの墨を使った習字など多彩なイベントが開かれた。

人工のイクラを作るコーナーも設けられた一般公開
＝横浜市金沢区

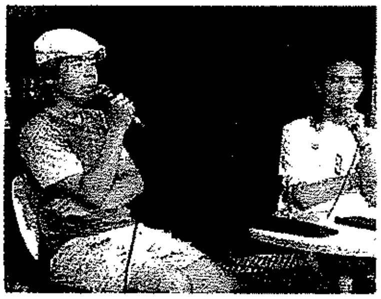
コンブなどに含まれるネバネバした成分「アルギン酸ナトリウム」を使い、人工のイクラを作るコーナーも設けられた。参加者は紅、青、黄色など、イクラを好みに色付けした。「本物のイクラみたいに作れて楽しかった」と横浜市立並木第四小の斉藤禎紀君（9）、菜那さん（7）は笑顔で話していた。

（吉田　太一）

0周年へイベント

んが「船」語る

で日本丸作製も



横浜開港記念事業への夢を語る日比野克彦さん
＝ランドマークプラザ

をつくってみたい。それに乗って横浜から出港したい」と開港記念事業へのイメージを語った。

「FUN

して開催。段ボールで全長四㍍のミニ日本丸をつくる。十日午後四時ごろには完成する見通しという。

（高本　雅通）

車いす空の旅

北海道の自然満喫

20家族、ボランティア支援し

車いすを利用する障害

東地方の雄大な自然を満

から募った障害者二十家

流氷館で、氷点下一四度の世界も体験した。

鎌倉市長谷から参加した多田卓矢君（11）、有輝君（6）の祖母喜久子さん（65）は、「子供たちにいい経験をさせることができた。いろいろな世代の障害のある人たちと出会えて勉強になった」。卓矢君も「お風呂

よかった。また

と満足そうだっ

「車いす空の

九八七年から始

近は春に沖縄、

道を訪問。県遊

組合とその福祉

の神奈川福祉事

城南建設グルー

Lグループなど

ている。

（木村

（神奈川新聞お知

「神奈川の

催事業実行委

十七、十八の

内計四会場で

を控えた中学

者らを対象に

公立、私立

高校計二百

二十六校が

合同で説明

会を開く「6

人の高校選び

6神奈川県公

説明会」を開

各会場には

れぞれのブー

られ、希望者

学校の説明や

うほか、参加

ター展示など